令和〇年度　個別の指導計画（特別支援学級用）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　組　　氏名

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 教科等 | 目　標 | 指導の手立て | | | 評　価 | 課　題 | 担当者 |
| 国　語 |  |  | | |  |  |  |
| 数　学 |  |  | | |  |  |  |
| 音　楽 |  |  | | |  |  |  |
| 美　術 |  |  | | |  |  |  |
| 家　庭 |  |  | | |  |  |  |
| 保健体育 |  |  | | |  |  |  |
| 作業学習 |  |  | | |  |  |  |
| 生活単元  学習 |  |  | | |  |  |  |
| 日常生活  の指導 |  |  | | |  |  |  |
| 自立活動 | 長期目標 | | ６区分との関連 | | 目　　標 | 指導の手立て |  |
|  | | 健康の保持 |  |  |  |
| 心理的な安定 |  |
| 人間関係の形成 |  |
| 環境の把握 |  |
| 身体の動き |  |
| コミュニケーション |  |
| 評　　価 | | | | 課　　題 | |
|  | | | |  | |

令和〇年度　個別の指導計画（通常学級用）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　組　　氏名

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 教科等 | 目　標 | 指導の手立て | 評　価 | 課　題 | 担当者 |
| 各教科共通 |  |  |  |  |  |
| 国　語 |  |  |  |  |  |
| 数　学 |  |  |  |  |  |
| 理　科 |  |  |  |  |  |
| 音　楽 |  |  |  |  |  |
| 保健体育 |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| コミュニケーション |  |  |  |  |  |
| 生活全般 |  |  |  |  |  |
| 給　食 |  |  |  |  |  |
| 行　事 |  |  |  |  |  |

（記入例） 令和元年度　個別の指導計画（特別支援学級用）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２年　１組　　氏名　上五島　太郎

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 教科等 | 目　標 | 指導の手立て | | | 評　価 | 課　題 | 担当者 |
| 国　語 | ・文字を丁寧に書くことができる。  ・読めない文字を読むときは、類推して読むことができる。 | ・記入しやすい枠や罫線のプリントを提示する。  ・ゆっくり書くように言葉掛けをする。  ・音読み、訓読み、類義語などを提示し、間違った読み方でも構わないので「わかりません」と答えさせない。 | | | ・1cm幅の罫線では枠からはみ出ることが多かったが、1.5cm幅では丁寧に書くことができていた。  ・ヒントを提示すると答えようとする意欲が見られた。繰り返し行うことで読める文字が増えてきている。 | ・言葉掛けがないと、文字が雑になることがあるので、引き続き指導していく。少しずつ罫線の枠を狭くしていく。 | 山田 |
| 数　学 | ・小数や分数の意味を理解し、計算が正確にできる。  ・小遣い帳を正確に記入し、残高に応じた買い物ができる。 | ・位をそろえて書くことが定着できるようマス目の入った用紙を用いる。  ・消費税の計算が難しい場合には計算機を使用する。 | | | ・マス目の入った用紙では位をそろえようと意識しており、ミスが減ってきた。  ・小遣い帳を正確に記入し、残高を把握して買い物ができた。計算機を使わずに消費税をおおまかに計算することができていた。 | ・丁寧に数字を書かないことが原因で計算ミスをすることがある。  ・将来の生活に向け、さらに大きな金額で、１か月単位での金銭管理ができるようにしていきたい。 | 佐藤 |
| 音　楽 | ・校歌の歌詞を覚えて、正しい音程で歌うことができる。  ・歌詞の意味を考えながら、思いを込めて歌うことができる。 | ・個別に歌詞カードを配付する。  ・難しい部分は小節ごとに区切って音取りの練習をする時間を設ける。  ・歌詞の意味や時代背景を考えさせ、イメージしやすくする。 | | | ・歌い出しの声が小さくなることがあったが、ほぼ正確に覚えており、音程も取れていた。何度か個別に練習をすると、大きな声で歌うことができるようになった。 | ・高音になると音がとれず、声が小さくなることがあるが、個別練習を行うと自信をもち、声が出るようになるようである。 | 鈴木 |
| 美　術  （交流） | ・用具を正しく使用することができる。  ・友達の作品を見て、感想を言うことができる。 | ・定規、カッター、絵の具、資材の正しい使い方を、絵で提示する。  ・作品のいいところ、工夫が感じられるところの例を提示する。 | | | ・制作活動では、完成の見通しを持ちながら、道具を正しく使用して作り上げることができた。  ・感想例を提示すると、例に沿って、自分の気持ちを入れながら感想を言うことができた。 | ・道具の使い方等は、視覚的な提示をする方が理解しやすいようであった。口頭での指示だと忘れることがあるようである。 | 田中 |
| 家　庭 | ・正しい方法で洗濯をしたり、干したりすることができる。  ・掃除用具を使用して、丁寧に掃除をしたり、工夫して整理整頓したりすることができる。 | ・取扱い絵表示を正しく覚えることができるよう、イラストを用いて提示、説明をする。  ・自分が着ている衣類のタグを確認しながら、実際に洗濯をする。  ・実際の生活で使うものを教材として用いる。 | | | ・自分の衣類の取扱い絵表示を正しく覚え、洗濯したり干したりすることができた。友達の衣類のタグにも興味をもち、自分の物との違いを確認することができた。  ・自宅で使用しているモップでフローリングをすみずみまで丁寧に掃除することができた。 | ・洗濯する量が多くなると、干すときに雑になり、しわになることがあった。干すときにも丁寧にできるように指導していく。  ・本の整理などはどこに入れてよいか迷っていることがあった。見出しをつけると整理できそうであった。 | 山田 |
| 保健体育 | ・マット運動でフォームを意識して、いろいろな技に意欲的に挑戦することができる。 | ・教師の手本を見ながら、自分が意識する部分を見つけることができるようにする。  ・ビデオを撮影し、客観的に自分の動きを確認できるようにする。 | | | ・教師の手本や指示を聞きながら、膝や手の動きを意識することができていた。伸膝前転などの難しい技に挑戦することができた。ビデオで自分の動きを確認することが一番効果的であった。 | ・さらに高度な技にも挑戦できそうであったが、時間がなく行うことができなかった。倒立前転、後転倒立等にも段階的に挑戦させたい。 | 佐藤 |
| 作業学習 | ・説明や指示を聞く態度を身に付ける。  （相手の目を見る。よそ見、手まぜをしない等）  ・大きな声で挨拶、返事、報告ができる。 | ・授業開始時に毎回、聞く態度の確認を行う。  ・他の教師が見本を見せる。  ・望ましい行動を褒め、定着を図る。 | | | ・４月初めは、よそ見をしたり姿勢が崩れたりすることが多く、指示を聞いていないことがあったが、毎時間の言葉掛けにより、次第に意識することができ、指示を覚えることができた。 | ・指示を忘れたり、失敗をしたりした際に、報告することができなかった。怒られると思っているようである。叱責せずに、繰り返し簡潔に言葉掛けをすると、安心して報告できるようになってきている。 | 秋葉 |
| 生活単元  学習 | ・クラスの友達の意見を聞きながら、歓迎遠足の準備や交流相手校への手紙の内容を考えることができる。  ・生活をしていく上で必要なスキル（買い物の仕方、食事のマナー、身だしなみの整え方等）を身に付ける。 | ・クラスの中心となって友達の意見を聞くことができるよう話合いの機会を設ける。話合いが進まない場合には、手順を提示する。  ・実際に取り組みながら学習を進めることができるようにする。 | | | ・話合いが進まなかったため、手順を提示すると、友達から出た意見と自分の意見を集約することができた。  ・進路学習では、身だしなみを整えることを自分の目標として決め、髭を剃るために必要な物を自分で買いそろえることができた。 | ・話合いでは、仕方なく自分の意見を言ったり、友達の意見に否定的な意見を言ったりすることがあった。友達への言葉の掛け方についても指導する必要がある。  ・実習の事後学習では、自分の課題から逃げようとする様子が見られた。自分の課題と向き合うことができるようにしていきたい。 | 秋葉 |
| 日常生活  の指導 | ・身だしなみを整えることができる。 | ・身だしなみチェック表を毎朝自分でつける。  ・髭を剃る曜日を教師と決める。 | | | ・５月くらいから慣れてきて、自分でチェックしながら毎朝行うことができるようになってきた。自分から姿見を使って制服を整える様子が見られた。 | ・現在のチェック表はほぼできているので、様子を見ながら、より細かいチェック表に変更していく。 | 秋葉 |
| 自立活動 | 長期目標 | | ６区分との関連 | | 目　　標 | 指導の手立て | 秋葉 |
| ・人に関わる時に、適切な距離を保ったり、相手に応じて会話の内容や話し方を考えたりすることができる。 | | 健康の保持 |  | ・同性の仲の良い友達との距離を保つ。  ・友達に対して優しい話し方ができるようにする。 | ・距離を一定に保つことができるように、距離が近すぎたり触れたりしている場合には、腕一本分離れるなど視覚的に提示する。  ・名前を呼んでから話し掛けるよう指導する。  ・強い言い方や命令口調の場合には、望ましい言い方を簡潔に伝え、言い直しをさせる。 |
| 心理的な安定 | 〇 |
| 人間関係の形成 | 〇 |
| 環境の把握 |  |
| 身体の動き |  |
| コミュニケーション | 〇 |
| 評　　価 | | | | 課　　題 | |
| ・特定の友達との距離が近い時に、「腕一本分」と言葉掛けをすると、気付いて、距離を保つことができるようになってきた。  ・相手の名前を呼んで話し掛けることにより、相手の目を見て、優しい言葉で話すことができることが増えてきた。教師の目が届かないところでは、まだ不十分であることが多い。 | | | | ・言葉掛けをしないでも、自分で距離を保つことができるようにしていきたい。不安な時に友達に触れていることが多いようである。見通しを持たせて取り組むことで不安を取り除き、距離を保てるようにすると良いと思われる。  ・自分の思うようにならない場合に、友達への言葉遣いが荒くなることがあった。落ち着いてから言い直しをさせると優しい言葉で言えるようである。教師の目がないときにも、望ましい言葉遣いになるようにしていきたい。 | |

（記入例） 令和元年度　個別の指導計画（通常学級用）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２年　１組　　氏名　上五島　太郎

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 教科等 | 目　標 | 指導の手立て | 評　価 | 課　題 | 担当者 |
| 全教科共通 | ・枠からはみ出さないように文字を書くことができる。  ・指名されてから発言することができる。  ・説明や指示を最後まで聞くことができる。  ・読めない文字を読むときは類推して読むことができる。 | ・プリントや定期考査用紙はゴシック体１２ポイントに統一する。枠や罫線も１２ポイントの幅に統一する。  ・質問をする前に指名する。  ・指名されてない時に答えても反応しない。  ・説明や指示をする前に、名前を呼んで注目させたり、姿勢を整えさせたりする。  ・説明や指示は、可能な限り視覚的に提示し、口頭で説明を加える。  ・指示は一度に３つまでにする。それ以上は手順表を提示する。  ・音読み、訓読み、類義語などを提示し、間違った読み方でも構わないので「わかりません」と答えさせない。 | ・枠からはみ出して書くことが少なくなった。  ・自分が指名された場合には、質問を最後まで聞いて答えることができるが、他の生徒が指名された場合には、我慢できず発言してしまうことがあった。特に社会ではそのような行動が目立っていた。  ・手順や活動内容を図示することで、集中して話を聞くことができるようになってきた。  ・類義語のヒントを出しながら読ませると、自信がなさそうにしながらも類推していた。 | ・今後も継続して行う。  ・指名されていない時に、発言した場合に、教師が反応しないようにすると、以前より発言回数が減ってきたようである。今後も継続して行う。  ・特定の教科では図示しやすいが、日常生活では手順表などを毎回提示することが難しい。自分で手順を考えながらメモをさせ、見通しをもたせる方法をとらせていきたい。  ・繰り返し、継続して指導していく。 | 山田  佐藤  山口  森  田中  秋葉 |
| 理　科 | ・実験を正しい方法で安全に行うことができる。  ・グループで協力して実験をすることができる。 | ・用具の使用方法を図で示す。  ・実験の手順表を提示する。  ・実験用具を準備する前に、グループで役割分担を決めさせる。 | ・用具を準備する前に、役割分担を行うと、見通しをもって安心して実験に取り組むことができたようだ。手順表をよく見て行っていた。 | ・バーナーなどの火を扱う実験では、自分がやりたいという気持ちを抑えきれず、友達とのトラブルにつながることがあった。 | 田中 |
| 保健体育 | ・自分の位置を覚え、整列することができる。 | ・整列場所、整列位置を毎時間固定する。  ・整列する場所が変わる場合には、具体的な場所を先に説明したり、マーカーを置いたりする。 | ・集合、整列の場所を固定することで、素早く自分の位置に移動することができた。見通しをもって行動することができていた。 | ・整列する場所が変わる場合に、先に説明をしても理解できていないことがある。 | 秋葉 |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| コミュニケーション | ・同性、異性の仲の良い友達との距離を保つ。  ・友達に対して優しい話し方ができるようにする。 | ・距離を一定に保つことができるように、距離が近すぎたり触れたりしている場合には、腕一本分離れるなど視覚的に提示する。  ・名前を呼んでから話し掛けるよう指導する。  ・強い言い方や命令口調の場合には、望ましい言い方を簡潔に伝え、言い直しをさせる。 | ・特定の友達との距離が近い時に、「腕一本分」と言葉掛けをすると、気付いて、距離を保つことができるようになってきた。  ・相手の名前を呼んで話し掛けることにより、相手の目を見て、優しい言葉で話すことができることが増えてきた。教師の目が届かないところでは、まだ不十分であることが多い。 | ・言葉掛けをしないでも、自分で距離を保つことができるようにしていきたい。不安な時に友達に触れていることが多いようである。見通しを持たせて取り組むことで不安を取り除き、距離を保てるようにすると良いと思われる。  ・自分の思うようにならない場合に、友達への言葉遣いが荒くなることがあった。落ち着いてから言い直しをさせると優しい言葉で言えるようである。教師の目がないときにも、望ましい言葉遣いになるようにしていきたい。 | 秋葉 |
| 生活全般 | ・ロッカーの整理整頓ができる。  ・身だしなみを整えることができる。 | ・ロッカーの上に、正しい整理の仕方を図示する。  ・週１回チェックをする。  ・身だしなみチェック表を毎朝自分でつけ、提出する。  ・髭を剃る曜日を教師と決める。 | ・言葉掛けをすると、図を見ながら、きれいに整理できることが増えた。月に１回ほど、自分から整えようと意識しているようだった。  ・５月くらいから慣れてきて、自分でチェックしながら毎朝行うことができるようになってきた。自分から姿見を使って制服を整える様子が見られた。 | ・自分から定期的に整理しようとする姿は、まだ見られない。週１回のチェックがなくても日頃から行うことができるような手立てを考えていく必要がある。  ・現在のチェック表はほぼできているので、様子を見ながら、より細かいチェック表に変更していく。 | 秋葉 |
| 給　食 |  |  |  |  |  |
| 行　事 |  |  |  |  |  |